

環境・生命工学課程 R. S さん

実務訓練機関 ウォータールー大学

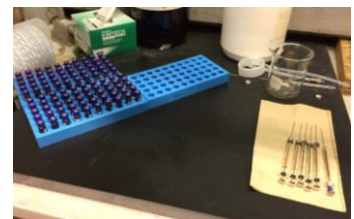
海外で実務訓練を行った理由

グローバル化が進む中で、英語の修得は必要不可欠な要素となりつつある。そんな中で、小学生の高学年からずっと勉強している英語が、実社会において一体どれ程役に立つのか、また、どれほど通用するものなのかを確かめるために海外にて実務訓練を行った。もしも、実務訓練に行った結果、英語能力が足りていないと実感した場合は、今後の英語学習への意欲へ繋がり、英語が想像していたより通じたと感じた場合は、自分の将来に新たな選択肢を見出すことができるのではないかと考えたのも、海外実務訓練に参加した理由である。

また、自身の研究室と海外の研究室の研究スタイルの違いや、新しい機器を扱う上で必要な知識を英語のみを使って体得できれば、今後勉強を続ける上での自信に繋がるのではないかと考え、海外実務訓練に参加するに至った。

実務訓練先機関の紹介・実習

実務訓練先として、カナダ、オンタリオ州のウォータールーに位置する、ウォータールー大学 (University of Waterloo) に行き、研究を行った。大学自体は、理工学系を中心とした研究型の大学であり、設立された当時から先進的な学部学科を設置していた。中でも環境学部や応用健康科学部身体運動化学科は北米で初めて設置され、今日までの抱負な経験と幾多の実績から、今なおその研究内容には世界中が注目を集めている。今回は、理学部の (ESC: Earth Sciences and Chemistry) の Tadeusz Gorecki 教授の研究室に在籍し、分析化学の分野の研究補助を行った。具体的には、二次元オフライン HPLC による混合された化合物の分離に関する研究を補助した。



現地での生活

今回の訓練は1月から2月にかけての期間で行われたため、現地は真冬であり、深い雪に覆われていた。学校まではバスで通い、バス停までは歩いておよそ6分～7分程度だった。学校では9時～10時に研究を開始し、13時頃に昼食を取った。13時30分頃から研究補助を再開し、17時～18時頃に学校から帰っていた。教授の友人宅の地下室(ベースメント)に帰ってから夕飯を作り、明日の支度をしてから床に就くという流れが、基本的な平日の過ごし方だった。

ウォータールーは決して暖かい気候とは言えないというのはもちろんのこと、晴れている日も決して多くない。大方は曇っていて、雪か雨が降っている。また、稀にフリージングレインという気象現象に遭遇することもある。ある特殊な条件下で、氷点下を下回っても液体の状態を維持したままとなっている雨粒が落下した際に、ものにぶつかった衝撃で瞬間的に凍るという現象である。この現象により、道路はもちろん、看板やフェンス、木々の枝まで氷でコーティングされてしまうという日が、滞在中何日かあった。そういった日は普段徒歩5分で目的地に到達できる道でも、3倍の時間がかかったりする。しかし、主な公共交通機関であるバスはどんなに酷い雪の日も、フリージングレインの日も運行しているため、学校までの登校手段は確立されているように感じた。

海外実務訓練を考えている学生へ

海外実務訓練を終えて、海外にしか存在しない企業での体験はもちろん、自身の研究と通ずるテーマを扱っている大学の研究機関に行くことにも大きな価値があると感じた。留学はお金がかかるから、日本で弛まず英語の勉強をして、オンライン英会話による自身のコミュニケーション能力を高めるところまで高めましたという人が居たとするならば、また、仮にそう考えた結果、留学や海外実務訓練という選択肢を視野から外しましたという人が居るならば、そういう人にこそ海外実務訓練を経験して欲しい。実際に自分の生活を掛けて、必要なコミュニケーションを取る毎日は、英語に自信がない人には言うまでもないが、特に英語に自信がある人にとってはとてつもない衝撃になるはずである。日常の些細なことから大きなことまで、英語で表してみたくなるこの環境は、将来就職してからでは、大きなお金をかけることでしか、自分の意思で手に入れることはできない。海外を体験する絶好の機会を逃す手はない。自分自身、英語をそこまで突き詰めて勉強したわけでもないのに、自分の英語学習の方法がどれほど間違っていたかを嫌になるほど感じることもできた。実際に使える英語がどういふものなのかを勉強するためにも、是非海外実務訓練を体験し、自身の将来に役立てて欲しい。

